コラム

「吾輩は矢上キャンパスの猫である」

阿部（あべ）　彩乃（あやの）
（理工学メディアセンター）

「名前はまだにゃい！」…さて，皆さんの心をつかんだところで本題に入るとしよう。緑あふれる矢上キャンパス（以下「キャンパス」とする）では，ハチ，トカゲ，タヌキなど様々な生き物に遭遇する。その中でどうして猫なのかといえば，理工学メディアセンタースタッフ内で有名なキジ三毛の猫がいるからだ（2020年12月24日に初めて出会ったのでこの場では「イブ」と呼ぶ）。

イブはあろうことか，コロナ禍でまだ入構申請が必要なキャンパスにひょっこりと現れ，なんともふてぶてしい顔で散歩していたのである。スタッフがその光景を写真に撮ったことによって職場内で知られるようになり，それからというものキャンパス内を歩く姿が目撃されるたびに私達の被写体となった。

イブの写真を理工学メディアセンター公式Twitterにアップすると，「いいね」や「リツイート」を多く稼いだ。これに味を占めた私は，2021年４月１日に「イブに公式アカウントが乗っ取られた」というエイプリルフールネタを仕掛けた。まず，組織名を「慶應義塾大学理工学メディアセンニャー🐱」に，ヘッダーとアイコンの写真をイブに変え，自己紹介文の語尾には「にゃ」をつけ，フォロワーが本当に乗っ取られたのではないかと錯覚するぐらいに仕上げたのである。嬉しいことに朝から反響はすさまじく，学生のみならず，なんと教員からもコメントをいただく事態となった。その後も「いいね」や「リツイート」の動向に一喜一憂していると，その日の午後に知ってか知らずか，図書館の通用口前を征服してやったぞと言わんばかりに歩くイブの姿に出くわし笑えた。

キャンパスの猫はイブだけでない。他に茶トラや白，キジトラ白の成猫も目撃されている。今回このコラムを書くにあたり，以前，塀を登れず救いを求めて鳴いている子猫を助けたという先輩スタッフの自慢話や，日吉キャンパスで生後３か月の子猫を保護し現在も一緒に暮らしている職員がいるという話も聞いた。また，1996年の記録ファイルの中に３匹の猫がくつろいでいる写真があると聞いて，撮影者に話を聞いたところ，「正確な場所は覚えていないが，以前は猫がたくさんいた日吉キャンパスの第三校舎と塾生会館の間あたりだったかもしれない。」ということだった。

猫好きの私は，たまに見かけるイブにいつも和んでいる。そしてキャンパスと猫が古くから繋がっていたことを知り，その時々の教職員や学生にとっても猫は癒しの存在であったことを信じてやまないのである。